

○子育て全体に関わる意見

子育てを取り巻く環境・社会に関すること

- 区の子育てに対する大きなビジョンを掲げ、子育て世帯が安心できるようなまちにして欲しい
- 行政に頼りすぎるのではなく、社会全体で助け合い、共に作り上げていく環境づくりが大切
- 誰もが責任を分かち合いながら子育てができるような、緩やかなつながりがあると良い
- 育休中も保育園に通える、育休を取りたい人は取れる社会を構築していけると良い
- 仕事をしていてもしていなくても、同じように子育て支援をうけることができ、どんな状況でも子育てがしやすい環境になって欲しい
- これからは、子育てが負担ではなく、楽しめるような社会にしていくことが必要
- 手当や政策を行うことで結婚や子育てをしている人が、余裕をもち幸せに生活をしているところを若者に見せていくことが必要
- 妊娠・出産を含めて子育てが楽しいということを、子どもや大人に伝えることができる文化や教育ができれば良い
- 子どもを2人目、3人目と望むことができるきっかけづくりができれば良い
- 父親同士のつながりをつくる取組が必要

子育て支援に関すること

- 行政には、コミュニティづくりの後押しやきっかけづくり、支援などをして欲しい
- 一つの子育てアプリで済むようなアプリを設計して、子育て世帯の利便性を高めて欲しい
- こんにちは赤ちゃん訪問から4か月児健康診査まで間が空いてしまうため、チャットボット形式で気軽に相談できる仕組みがあると良い
- 保護者の声や子どもたちのことを第一に考え、子ども・子育て施策の取組を進めていく必要がある
- 保護者同士の横のつながりでの情報共有の後押しをすることも保護者がうまく情報を得ることにつながる
- 2か月児相談が始まったように、みんながあれば良いなと思っていることが実現されていけば良い

これまでの意見交換での主な意見

○子育て全体に関わる意見

子どもの視点に関すること

- 子ども自身がどう考えているのか、子どもの視点も重要である
- その子自身の中にその子の価値があることを意識することが重要であり、子どもの意見をどう聞いて捉えていくかが大切

周知・啓発に関すること

- 子育て支援に関する区の様々な取組や特色について、より多様な媒体で、幅広く周知を行うべき
- 情報の発信の仕方を工夫しより多くの人に、上手く子育て情報をマッチングできるようにすると良い
- 親がどのような景色を見ているかなどユーザーの目線を意識した周知を行うことで、情報が伝わりやすくなる
- 子育てをサポートする役割として主任児童委員がいることを知って欲しい
- 区は都市農業が盛んであり、自然と一緒に子どもたちを育てる環境をもっとPRできるのではないか

これまでの意見交換での主な意見

○妊娠・出産期～在宅子育て期の子ども・子育てに大切と思うこと

子育てを取り巻く環境・社会に関すること

- 夫婦で子育てができるように、企業や社会が歩み寄る姿勢が大切
- 育児を通して様々なスキルが上がっていくと思うので、そういう人材を大事にしてたくさん育てていかなければならない
- 男性に子どもの出産等を身近に感じる意識づけを行うことにより、社会全体での虐待防止や安心に対する意識改革につながる
- 育児休業を取得する職員の代替を確保することが企業にとって難しい
- 子育て世帯の横のつながりを促し、助け合える知り合いを増やしていくことが大切
- 子どものために休暇が取得しやすくなるよう、社会全体にゆとりが必要
- 子どもと同じ時間を共有することが喜びに変わっていくような社会になって欲しい
- 母親の体調が悪い時などの緊急時に、育児を支援するサービスがあると良い
- 育児休業中に様々な選択肢が用意されていて、保護者が自由に子育ての形を選べるような柔軟性のある環境があれば良い

子育て支援に関すること

- 子育て支援に関する良い取組は多くあるが、育児支援ヘルパー事業など、利用条件に柔軟性があるとより良くなる
- 健康診断などの際に託児サービスがあるなど、母親が自身を大切にできるようなサポートがあると良い
- 就労の有無に関わらず、一時的に子どもを預けられる仕組みができると良い
- 親が子どもに接する時間が限られている中で、両親教室やペアレンティングなど、短い時間で効果的に養育できる支援方法もある
- 区は育児相談が大変充実しており、さらに広く周知できると良い
- 1度きりではなく継続して相談できる関係が築けるような、直接対面で行うサポートが大切
- 就労の有無に関わらず、産前産後の際のきょうだい児や母親へのケアを行って欲しい
- まずは家庭で子育てをして、病気になった際などに育児の応援を頼むことが必要
- 近くに一時預かり施設など、気軽に子どもを預けることができる場所があると助かる

これまでの意見交換での主な意見

○乳児期～幼児期の子ども・子育てに大切と思うこと

教育・保育サービスに関すること

- 保育所待機児童ゼロは達成しているが、今後はより安心して預けられるよう保育の質を向上していくことが大切
- 子どもの安全を守るため、保育士や幼稚園教諭の負担が増加しており、保護者も協力していくことが大切
- 区は農業が盛んなので、保育園や幼稚園もこれを取り入れられると良い
- 休日保育や年末保育など、保育に欠ける子どもだけでなく、様々な子どもが等しく支援を受けられるようになって欲しい
- 保護者の負担軽減については、私立保育園は進んでいるため、区立保育園や練馬こども園が情報共有しながら取り組んで欲しい
- 小規模な幼稚園でも、練馬こども園として運営できるよう区は支援して欲しい
- 働き方が多様化する中で、延長保育は一部の保護者にとっては必須である
- 育休中でも保育園に通えるなど、様々な子育てのかたちを実現できると良い
- 幼稚園を選ぶか保育園を選ぶかで、育休中に受けることができる保育サービスに差異が出ないようにして欲しい

教育・保育人材に関すること

- 国基準以上に手厚い人員配置ができると良い
- 保育士の人材確保や職員の処遇について引き続き支援・周知が必要である
- 保育士確保のために、給付条件の緩和や物価上昇に伴う上乘せなど、補助をより充実して欲しい
- 子どもが信頼できる大人に出会えるよう、働く人の処遇改善等の人材確保策を充実して欲しい
- 保育士自身が心にゆとりを持つために、処遇改善だけでなく、保育士が働く環境を整備していく必要がある

幼児期の子どもや子育てに関すること

- 幼児期の本質は、子どもが自ら様々な選択をして、自分自身を形作る力をつけることである
- 子どもには安全な環境だけでなく、好奇心や探究、冒険なども必要であり、保護者にも理解していただきたい

これまでの意見交換での主な意見

○学齢期以降の子どもと子育て家庭に大切なこと

子どもを取り巻く環境・社会に関すること

- 子どもが相談できる窓口を、子どもに向けて定期的に広報し情報発信して欲しい
- スマートフォンとの付き合い方が学齢期の子どもには必須になるので、幼少期からモラルやしつけをしっかりとすることが大切
- 国や区が提唱している「早寝・早起き・朝ごはん」を各教育現場の先生がより伝えていく必要がある

子どもの居場所・体験に関すること

- 子どもに様々な種類の出会いを体験させることは、子どもにとってプラスになり、将来力強いものになる
- 区は児童館が充実しているとともに、子どもの相談も受け止めているので、より多くの子どもにも利用して欲しい
- 緑豊かで公園も多い練馬区で、公園をぜひとも子どもたちの育ちにおいて有効活用して欲しい
- 児童館をコミュニティとして活用したり、地域に相談できる環境を作ることが大切
- 遊び場などの子どもの居場所は、区や民間、地域が協働して作っていただけると良い
- 継続的な場所の提供だけでなく、料理教室や和紙づくりなどの体験や練馬まつりなどのイベントの提供も継続して欲しい
- お金がかからない体験機会の提供や周知を行うことで子どもの体験格差が生まれない社会になって欲しい

教育・保育サービスに関すること

- 学校の職員や保護者、地域住民などそれぞれの立場で知っていることと知らないことがあるため、それを共有し助け合うことが大切
- 教員の働き方改革とともに、児童・生徒と先生が関わる時間を増やしていくことも必要
- 保護者も教員の働き方を理解し、小学校と一緒に運営していくような気持ちでやっていると良い
- 性的虐待などの被害に子どもが合わないように、子どもに関わる機関や施設で子どもをどう守るか、社会全体で話し合う必要がある

これまでの意見交換での主な意見

○支援を必要とする子どもや家庭への取組

子どもを取り巻く環境・社会に関すること

- 子ども家庭支援センター職員の強化や都児童相談所、民生児童委員などとの連携の中で、要保護児童に対応できれば良い
- 保育所や学童クラブで、障害児等の受入れがさらに広がると良い
- 保育園などで、障害児1人に対し、職員1人配置の目標を実現して欲しい
- 児童相談所などで人材不足が発生しており、社会的養護のための人材確保が必要である
- 経済的にコミュニティーに関われない子どもに対して区がフォローして欲しい
- 繋がりのない子どもには、声を聞くだけでなく、寄り添いながら声を聞いてあげるような居場所が増えていくと良い

支援が必要な家庭や子どもへのサポートに関すること

- 障害がある場合やグレーゾーンにある子どもの保護者に対して、区としてどのようなサポートができるかが課題
- 障害児や医療的ケア児に対する支援を充実すべき
- ひとり親家庭の支援をより充実する必要がある
- ひとり親家庭や社会的養護が必要な家庭から学び、施策を考えていくことが重要
- 社会的に関心が高いヤングケアラーへの区の取組について発信していくべきである
- ひとり親家庭や社会的養護が必要な家庭が守られるようなコミュニティーが必要
- 新しい支援の在り方として、学童クラブなどで困難な状況にある子どもの話を聞き、継続的に支援できる体制を整える必要がある